

令和6年3月26日
国土交通省中部地方整備局
沼津河川国道事務所

記者発表資料

E70 ^{いずじゅうかん}伊豆縦貫自動車道 国道414号^{かわづしもだ}河津下田道路（Ⅱ期）^{かわづななだる}河津七滝IC～^{かわづさかさがわ}河津逆川IC間
開通後（河津桜観光期）の
交通状況・開通効果について

1. 概要

令和5年3月19日（日）に開通した伊豆縦貫自動車道 河津下田道路（Ⅱ期）
河津七滝IC～河津逆川IC間の開通後（河津桜観光期）の交通状況・開通効果についてとりまと
めましたので、お知らせいたします。

■交通転換の状況

- ・並行する国道414号および（主）下佐ヶ野谷津線の交通の約3割が河津下田道路に転換しました。
- ・河津桜まつり会場へのアクセス時間が平均約6分短縮されました。

■【観光】伊豆半島南部の来訪者数が増加し、遠方からの来訪者も増加

- ・「みなみの桜と菜の花まつり」の来場者数は約26万人であり、コロナ禍以降順調に増加しており、
会場への所要時間が短縮したことにより遠方からの来訪者の増加にも寄与しました。

■【物流】物流効率化・労働環境の改善

- ・伊豆半島南部～首都圏の平均輸送時間が短縮し、物流の効率化に寄与しました。

■【救急搬送】救急搬送時間が短縮

- ・河津下田道路を利用することで、第三次救急医療施設までの所要時間が約12分短縮し、迅速な
救急搬送に貢献しました。

2. 配布資料

- （別紙1）開通区間の概要
- （別紙2）開通1年後の交通状況と観光期の混雑緩和
- （別紙3）【観光】伊豆地域の観光の活性化を支援
- （別紙4）【観光】みなみの桜と菜の花まつりへの来場者が増加
- （別紙5）【物流】物流効率化・労働環境の改善
- （別紙6）【安全安心】迅速な緊急搬送に貢献

3. 配布先：静岡県政記者クラブ、沼津記者会、三島記者クラブ、下田記者クラブ

4. お問い合わせ先：〒410-8567 沼津市下香貫外原3244-2

国土交通省 中部地方整備局

沼津河川国道事務所 副所長（道路）

計画課長

なかがわ しんご
中川 晋吾ばんば りょうへい
番場 良平

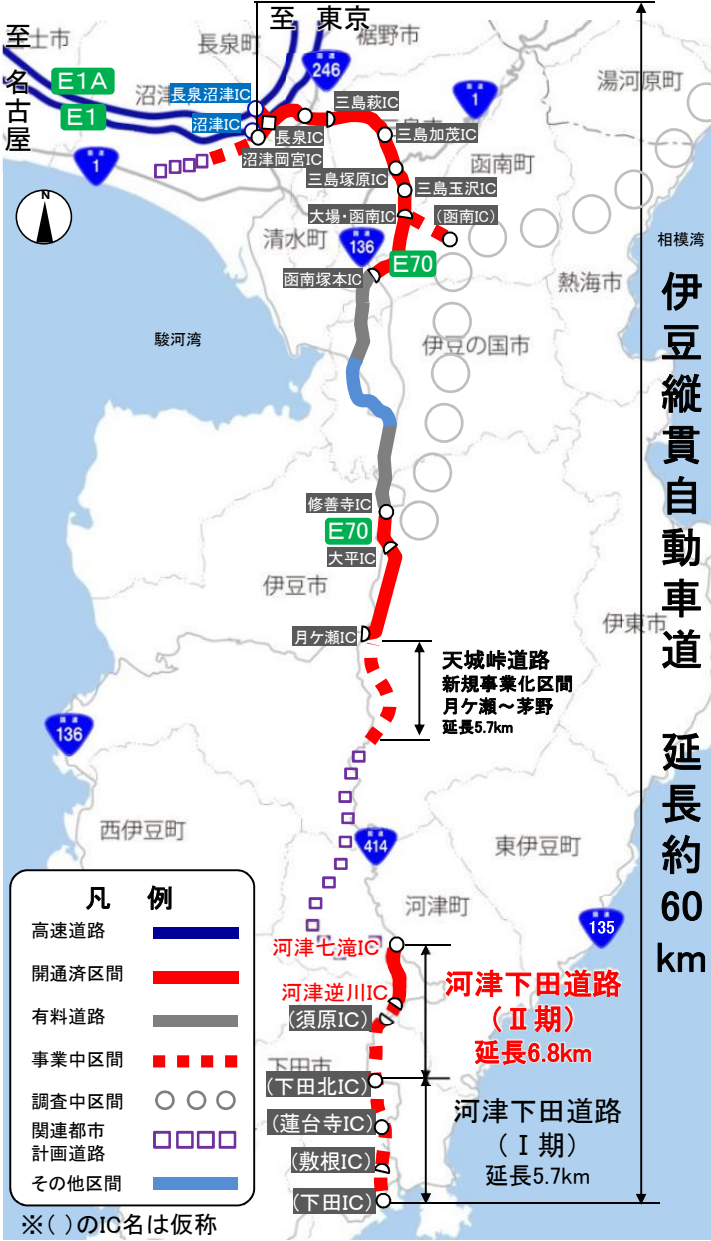
TEL 055-934-2010

Mail cbr-nmz-tyouni@mlit.go.jp

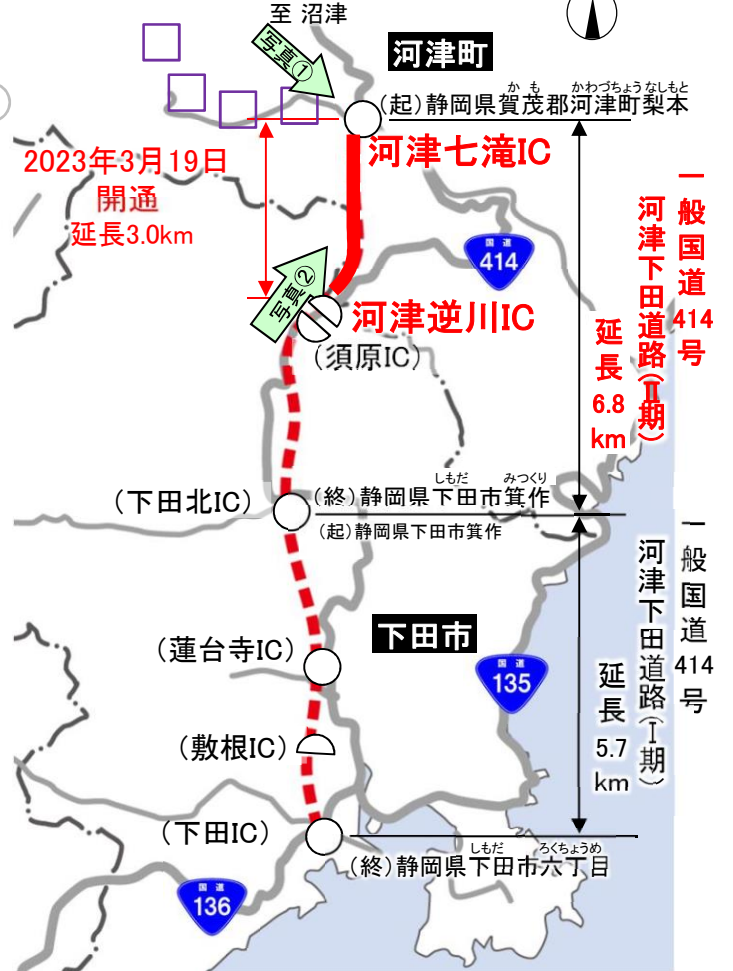
■ 河津下田道路（Ⅰ期・Ⅱ期）は、延長約60kmの伊豆縦貫自動車道の一部であり、静岡県河津町から静岡県下田市を通る延長約12.5kmの道路です。

■ 2023年3月19日に、河津下田道路（Ⅱ期）の一部区間である河津七滝IC～河津逆川IC間の約3.0kmが開通しました。

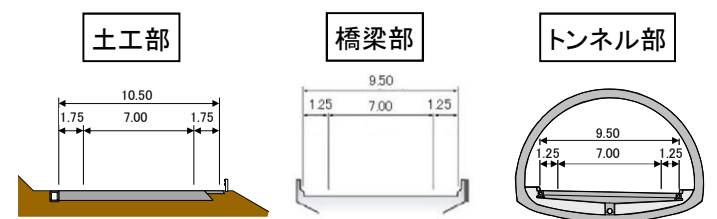
■ 全体図 伊豆縦貫自動車道



■ 拡大図 河津下田道路（Ⅱ期）



■ 標準断面図



[写真①] 河津七滝IC交差点付近

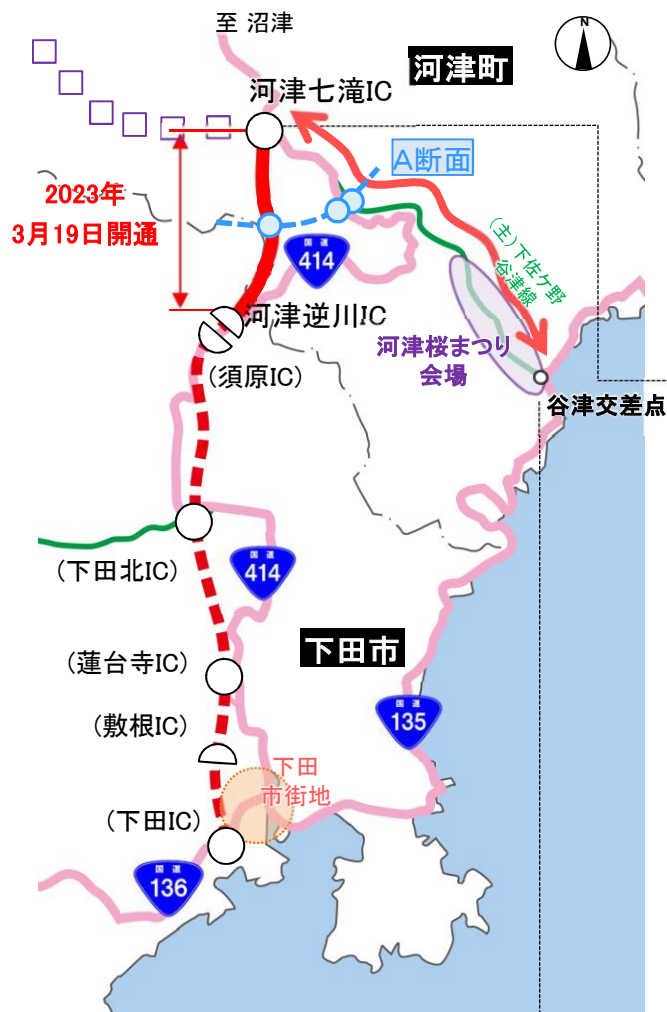


[写真②] 本線区間

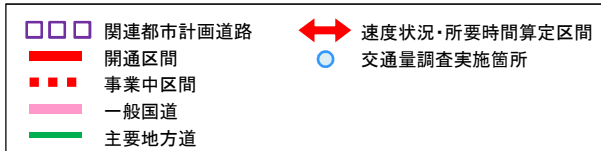


- 河津七滝IC～河津逆川IC間の開通から約1年が経過した時点では、国道414号と(主)下佐ヶ野谷津線の交通量の約3割が転換し、河津下田道路の交通量は約4,200台/日となっています。
- 毎年2月に開催される「河津桜まつり」において、「河津桜まつり」の会場へ向かう観光交通と下田方面の交通が分離され、河津町内での旅行速度が向上しました。

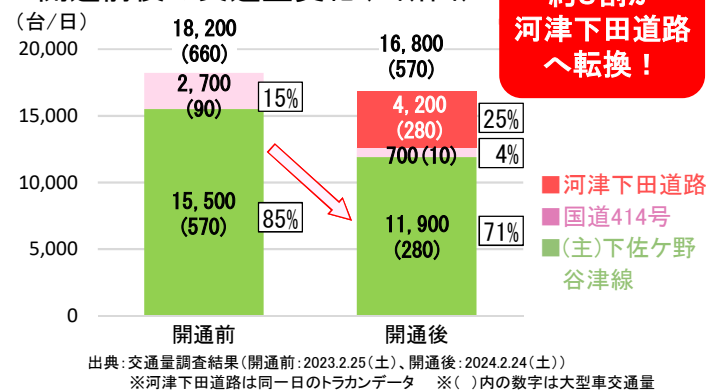
開通区間の概要図と交通量観測位置図



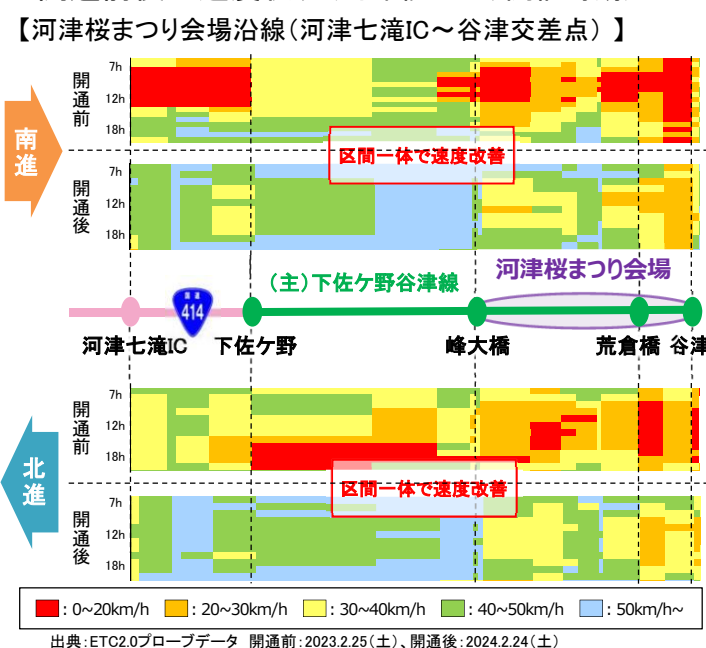
※IC名:()は仮称



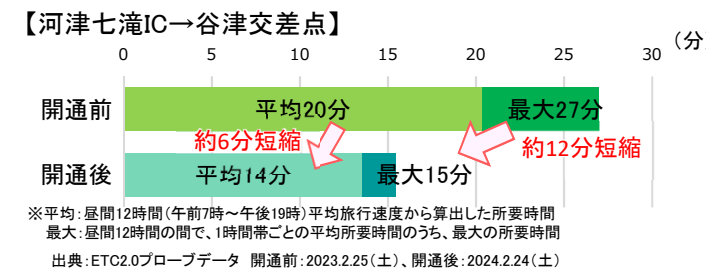
開通前後の交通量変化(A断面)



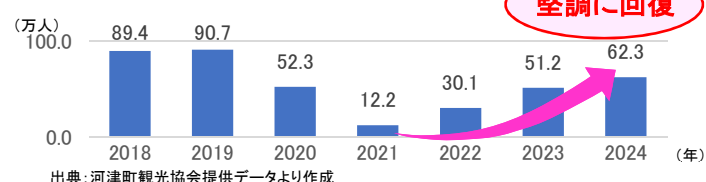
開通前後の速度状況(河津桜まつり開催時期)



開通前後の所要時間(河津桜まつり開催時期)



【参考】河津桜まつりの来場者数



河津下田道路(Ⅱ期)の開通後、下田市方面に向かう車両が開通区間を利用するようになったことで、河津町内の混雑が緩和しました。

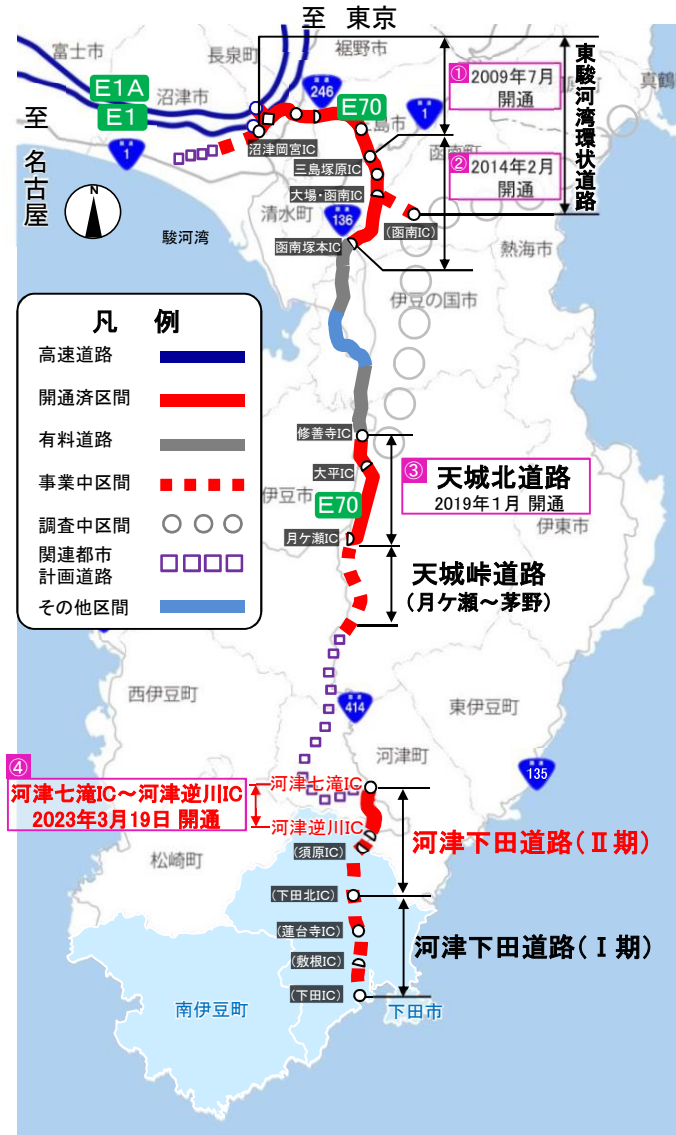
地元の皆さんからも、走行環境が改善されたとの声を聞いています。

(河津町観光協会ヒアリング 2024.2)

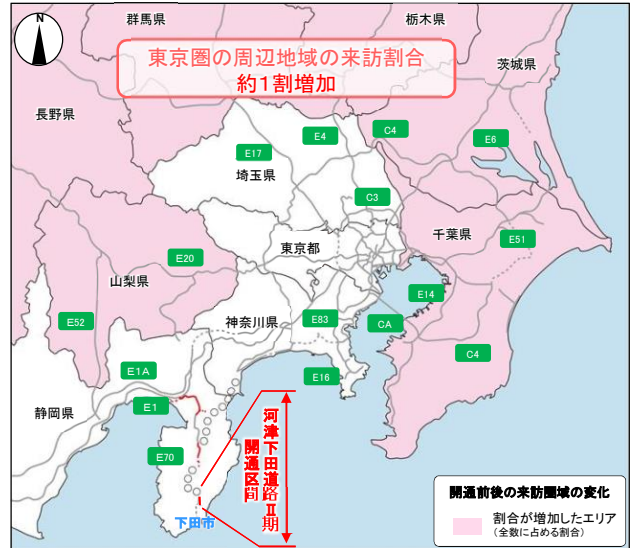


- ^{かわづななだる}河津七滝IC～^{かわづきかさかわ}河津逆川IC間の開通に伴い、関東地方を中心に、下田市・南伊豆町への来訪圏域拡大に寄与しています。今後、他の未供用区間の開通により、更なる来訪圏域の拡大が期待されます。
- 所要時間の短縮など、観光客の移動利便性が向上したことで、下田市宿泊施設の宿泊客数や稼働率が増加しています。

伊豆縦貫自動車道の開通状況

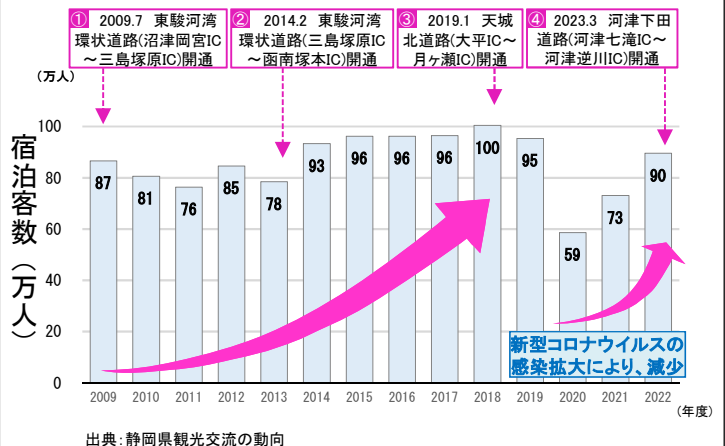


下田市宿泊者の来訪圏域の変化

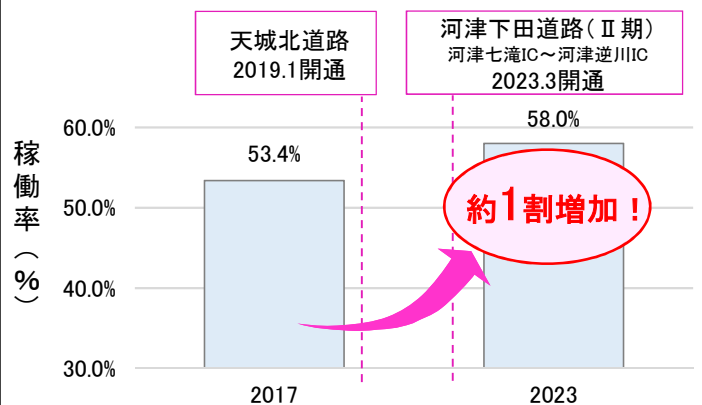


出典: 道の駅利用者アンケート調査結果 (開通前 (2022.8)、開通後 (2023.8)) より作成

下田市の宿泊客数の推移



宿泊施設稼働率の推移



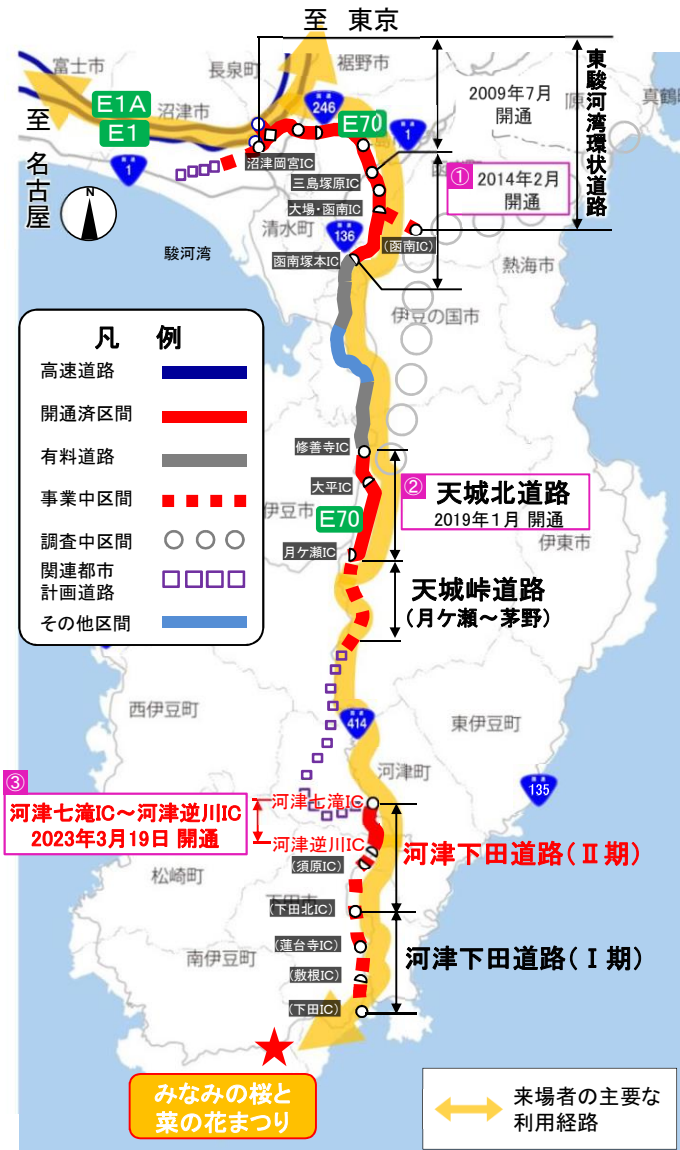
河津下田道路(Ⅱ期)の開通以降、下田市への移動利便性が向上したことで、宿泊されるお客様も増加傾向にあり、来館されるお客様の圏域もこれまでは神奈川県や東京都からの来訪が主でしたが、山梨県や千葉県等の遠方からのお客様が増加しています。ホテルの稼働率も上昇傾向にあります。

河津下田道路の早期の全線整備により、さらなるお客様の増加と、伊豆地域全体の観光の活性化を期待しています。



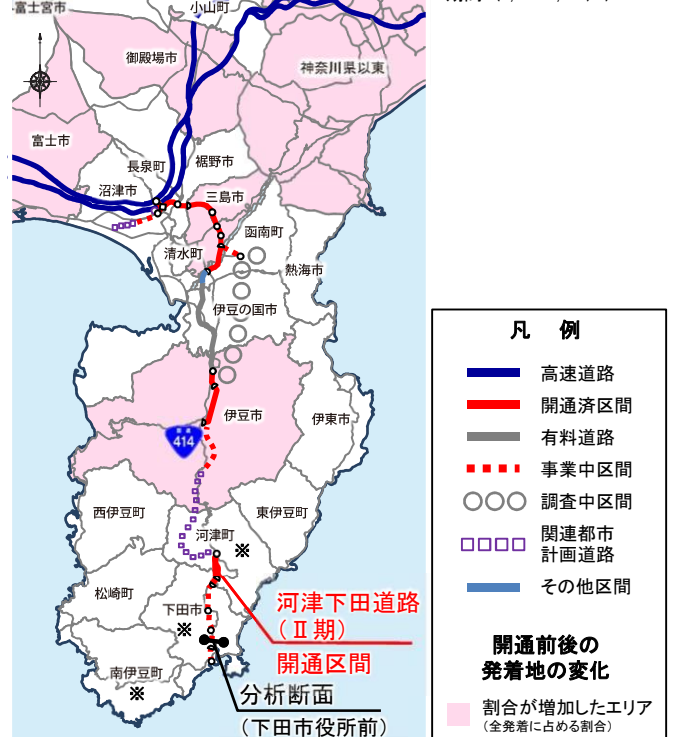
- ^{かわづなだる}河津七滝IC～^{かわづきかきわ}河津逆川IC間の開通により、^{いず}伊豆半島の南端である^{みなみいずちよう}南伊豆町へ立ち寄りやすくなり、遠方からの来場者が増加するなど、観光産業の発展に貢献しています。
- ^{みなみいずちよう}南伊豆町では、2月初旬～3月初旬にかけて「みなみの桜と菜の花まつり」を開催しており、2024年の来場者は約26万人を記録し、コロナ禍以降、順調に増加しています。

■ 開通区間の概要図

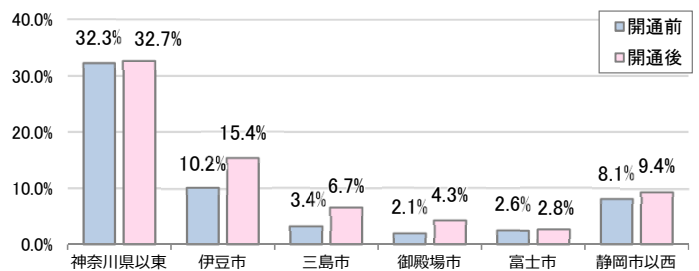


■ 国道414号利用車両の発着地

(みなみの桜と菜の花まつり期間 (2/1～3/10))

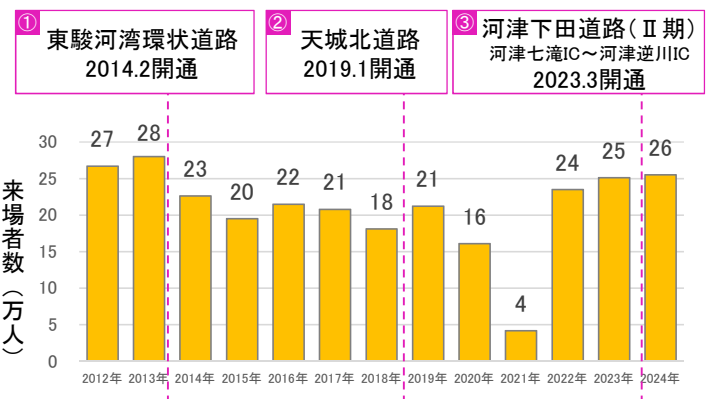


遠方エリアを発着地とする割合が増加



下田市、南伊豆町、河津町を発着地とする車両は除外
出典: ETC2.0プローブ情報 (小型車を対象) 開通前: 2023.2 (休日)、開通後: 2024.2 (休日)

■ 「みなみの桜と菜の花まつり」来場者数の変化



出典: 南伊豆町観光協会 提供データより作成

南伊豆町では、毎年2月初旬～3月初旬にかけて「みなみの桜と菜の花まつり」を開催しています。

河津下田道路 (Ⅱ期) の開通前は、国道135号が来場者の主要な経路でしたが、開通後は開通区間を主要な経路として利用する来場者が増加しました。

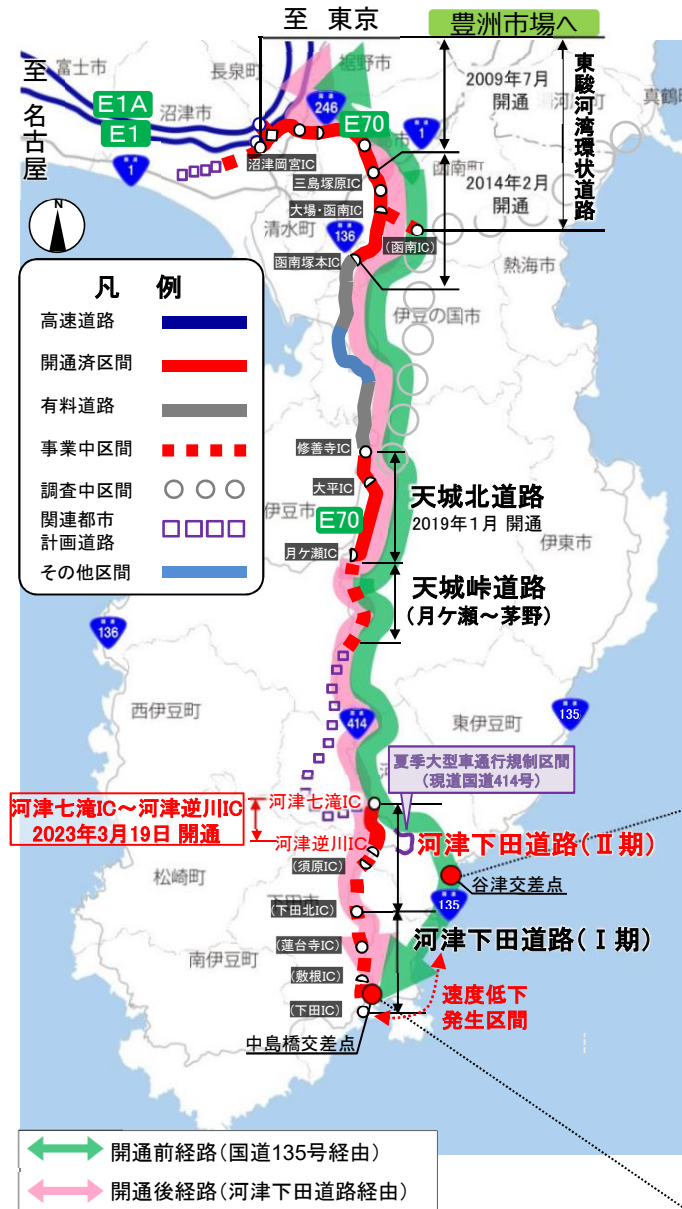
移動の利便性が向上したため、さらなる来場者数の増加を期待しています。

(南伊豆町観光協会ヒアリング2024.3)

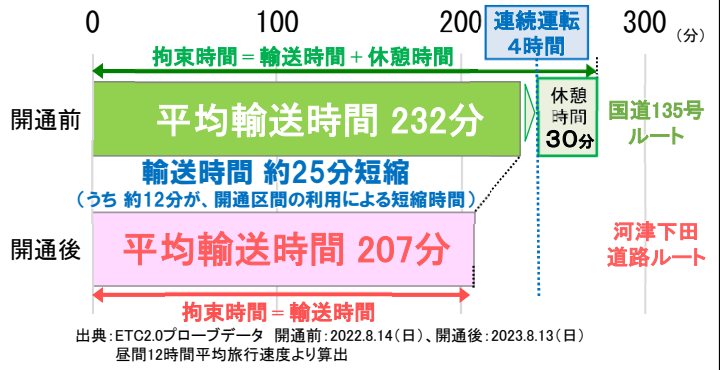


- ^{かわづななだる}河津七滝IC～^{かわづさかさかわ}河津逆川IC間の開通に伴い、輸送時間が短縮したことにより、物流の効率化に寄与しています。
- ^{いず}伊豆半島南部と首都圏との輸送においては、平均輸送時間が短縮したことで、ドライバーの拘束時間も短縮するなど、労働環境の改善に寄与しています。

■伊豆半島南部で収穫された青果品の輸送経路



■伊豆半島南部～豊洲市場の輸送時間短縮の例



【連続運転4時間毎 30分休憩の確保】

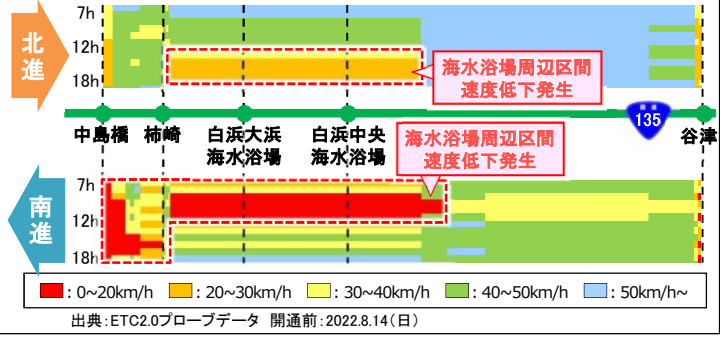
○「旅客自動車運送事業運輸規則第21条第1項の規定に基づく事業自動車の運転者の勤務時間及び乗務時間に係る基準」にて、**連続運転時間4時間毎に、30分休憩の確保が規定。**

【参考】下田市に位置する物流企业

- 東日本～関西を中心に物流サービスを展開。
- 伊豆半島南部で収穫された「わさび」等を始めとする青果品を週3回程度、下田市から豊洲市場に輸送。



■開通前輸送ルートの旅行速度状況 【国道135号ルート】



下田から豊洲市場にわさび等を始めとする青果品を輸送しており、河津下田道路(Ⅱ期)の部分開通前は、夏期大型車通行規制区間など、線形不良区間が点在する現道国道414号の利用を避け、国道135号経由で伊豆縦貫自動車道を北上していました。

海水浴のシーズンや河津桜の時期は、国道135号が混雑するため、輸送時間が長くなり、ドライバーの労働時間の増加につながっていました。また、ドライバーは4時間運転すると30分休憩することが義務付けられており、配送先を目前にしても30分の休憩を余儀なくされるなど、休憩時間を含む、拘束時間については、さらに増加していました。

開通後は、**開通区間を利用する輸送ルートに変更**したことで、**輸送時間が短縮し、ドライバーの労働時間の削減**が図れています。物流2024問題のように、これから労働規制がさらに厳くなるため、伊豆縦貫自動車道の全線開通に、大きく期待しています。

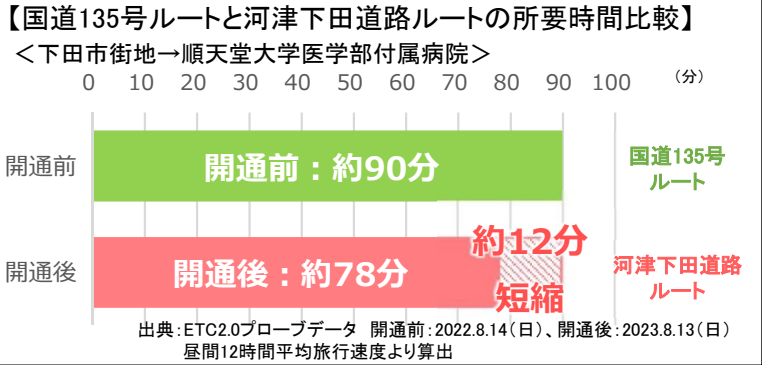


- 河津七滝IC～河津逆川IC間の開通により、下田市街地からの搬送ルートについて、開通区間を利用するルートに変更したことで、国道135号の混雑区間の回避が可能となり、迅速な救急搬送につながっています。
- 最新の下田市内の救急搬送件数は、コロナ禍以前よりも増加しており、救急搬送需要は増加傾向にあります。引き続き、道路整備による救急医療活動への支援が期待されています。

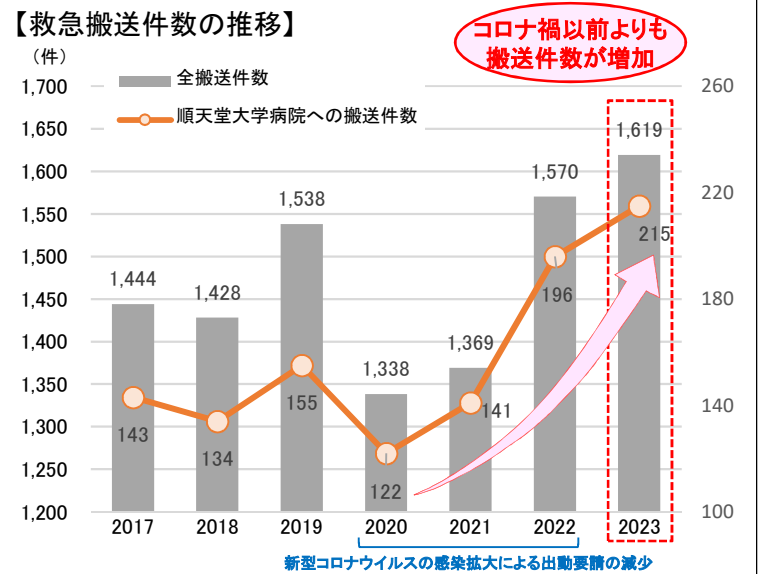
■ 開通前後の救急搬送経路の変化



■ 開通区間利用による所要時間の短縮効果



■ 下田市内の救急搬送件数の推移



観光客の増加や地域の高齢化等により、2023年における下田市内の救急搬送件数は、コロナ禍以前よりも増加するなど、救急搬送需要は増加傾向にあります。開通前は、国道414号の線形不良区間を回避するため、国道135号経由で救急搬送していましたが、夏期は、搬送件数が増加する一方、交通混雑が発生するため、病院への到着時間が長くなってしまいう傾向にありました。開通後は、開通区間を経由するルートに変更したことで、迅速な搬送が可能となりました。患者さんやドライバーの負担軽減にもつながっており、非常に助かっています。河津下田道路の全線開通によるさらなる医療活動へのご支援を期待しています。



伊豆半島

新しい道、
できます。

ひがしいずちょう
東伊豆町



しもだし
下田市



IZU

